



# 美術館 周辺 ぶらり 散歩。

沙弥島からの眺めは格別です。瀬戸の海に包まれた沙弥島の史跡を散歩してみたいはいかが？

## 1 沙弥島

沙弥島は万葉の島として知られています。万葉の歌聖柿本人麻呂がこの島に船をつけ、石の中の死人をみて歌った歌が残っています。また、長崎鼻やナカダ浜からは瀬戸大橋の雄大な景色を眺めることができます。一周約1kmの遊歩道をゆっくり歩いて、歴史ロマンを訪ねてみませんか。

## 2 沙弥ナカダ浜遺跡 (県指定史跡)



中の田の意味でナカダと呼ばれる。砂の下に古代の製塩土器が包蔵され、敷石炉と焼塩炉も保存されている。さらに下層には縄文土器も出土し、古くから人々が生活した場であったとされる。

## 3 海の家



この施設は、市民が心身を鍛錬して救済の向上および健康の増進を図るための社会教育的団体の宿泊研修施設です。

## 4 人麻呂歌碑



柿本人麻呂の長歌と反歌の全文が刻まれている。平成2年に建立された。

## 5 愛恋無限文学碑



中河与一氏の小説「愛恋無限」を記念した文学碑。小説の最終章には沙弥島が描かれている。

## 6 柿本人麿碑



坂出出身の作家、中河与一氏が昭和11年に建立した石碑。揮毫は歌人の川田順氏により、碑は花崗岩製で島の石材を使用。

## 7 人麻呂岩



柿本人麻呂が歌の中で詠む石の中に死れる人を視た岩と伝えられる。

## 8 長崎鼻石棺



弥生後期頃の箱式石棺で青銅の矢じりが1点出土された場所。岬からの眺めは格別で、激しい潮流、塩飽の島々が眺望できます。

## 9 タンポ組合石棺



子供を葬ったとされる弥生後期頃の小型石棺。

## 10 白石古墳



古墳時代後期の横穴式石室の古墳。天井石は崩落しているが、内部に耳環・製塩土器・須恵器等が副葬されており、製塩業で力をもった人物の墓と考えられている。

## 11 城山



島の北西丘陵の最も高い小山が「しろやま」の名でよばれていて、塩飽の島々が展望できる高所である。

## 12 沙弥島海水浴場



沙弥島のためにもある海水浴場。現在は陸続きになっているので車で気軽に訪れる。細かな砂の浜で、夏には県内外から海水浴に訪れる人も多い。

## 13 理源大師堂



讃岐の五大師の一人といわれる聖宝理源大師をお祀りしたお堂。境内には理源大師由来のたらい岩がある。

## 14 万葉会館



万葉会館は、地域の伝統ある文化、芸能等を活性化させ、保存、継承および発展向上を図るための施設です。

## 15 千人塚 (県指定史跡)



県下でも珍しい方墳。古墳時代の前期頃とされており、周囲には古墳時代の終わり頃の小型の墓が造られている。一説に理源大師の母綾子姫の墓という伝承が残されている。

## 16 金刀比羅神社



古くは理源大師との関係で吉野権現が祀られ、その後、海の神様であるこんびらさまが合祀されて、沙弥の氏神さまとして祀られている。

## 17 香川県立東山魁夷せとうち美術館



東山魁夷画伯の祖父が、権石島のご出身であることから、ご遺族より版画作品など約280点の作品が香川県に寄贈されたのを契機に、万葉のロマン漂う美しい自然に整備された美術館。

## 18 えなが石



理源大師へのその緒を埋めた場所という。

## 19 瀬戸大橋記念館



雄大な瀬戸大橋の眺望や架橋にまつわるさまざまな感動のドラマを体験することができます。(入館無料)



沙弥島はかつては坂出港の沖合約4kmに浮かぶ、東西160m、南北930mの小島であった。昭和42年(1967年)番の州埋立事業で陸続きになったが、今でも『沙弥島』と呼んでいる。

60年前に建てた人麻呂来島記念碑

